〈ガソリン〉三相 200V 発電機
EF6000TE　取扱説明書

インバーター発電機・蓄電池レンタル専門店

笑顔のバトンタッチ
上州物産株式会社

〒３７９－２１６６
群馬県前橋市野中町３６９－２
TEL：０２７－２８９－６０８０
FAX：０２７－２８９－６１６６
緊急連絡先：０８０－５６４３－７１８１

インバーター発電機・蓄電池レンタル専門店
ホームページへアクセスする場合はこちらの
QR コードを読み込んでください。

目次

１．　メーカー取扱説明書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
２．　梱包方法
３．　ＰＰバンドの使用方法

YAMAHA

携帯発電機

取扱説明書

EF6000TE

ご使用前に、必ず取扱説明書・本体ラベルをお読みになり、内容を理解してからお使いください。

331305
7P6-F8199-J2

おねがい

ヤマハ商品をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。
本書には、商品の安全性に関する情報と商品の正しい取り扱い方法および簡単な点検・調整について説明してあります。
万一、取り扱いを誤まると重大な事故や故障の原因となります。
あなた自身の安全と環境や住民の方との調和のために、また商品の性能を充分に発揮させるために、商品の取り扱いを充分ご存じの方も、この商品独自の装備・取り扱いがありますので、ご使用前に必ず本書を最後までお読みください。なお、ご使用時には本書を携帯し、安全に商品をご使用くださいますようお願い申し上げます。

- 本書では、正しい取り扱いおよび点検・調整に関する必要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠ 安全に係る注意情報を意味しています。

⚠警 告 取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。

⚠注 意 取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。

要 点 正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

- 仕様変更などにより、本書のイラストや内容が一部実機と異なる場合がありますのでご了承ください。
- 保証書はよくお読みいただき、裏面のお買いあげ日、販売店の記入をご確認ください。
- 本書は大切に保管し、わからないことや不具合が生じたときにお読みください。なお、本機の転売や譲渡などをされる場合は必ず添付してください。

目次

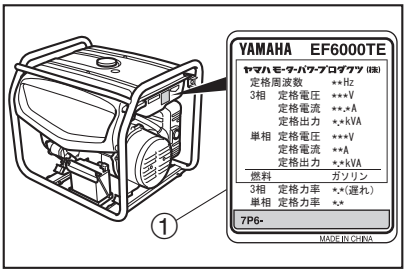
おねがい……表紙裏（表 2）
本体識別番号……P1
お客様ご相談窓口のご案内……P2
安全にお使いいただくために
お守りください……P3
⚠ 警告……P3
⚠ 注意……P4
環境への配慮……P4
重要ラベル……P5
⚠ 警告ラベル……P5
⚠ 注意ラベル……P6
その他ラベル……P6
各部の名称……P7
各部の取り扱い……P9
● エンジンスイッチ……P9
● オイル警告装置……P9
● オイル警告ランプ（赤色）……P10
● 交流スイッチ……P11
● 燃料タンクキャップ……P11
● 燃料コック……P12
● アース端子……P12
● エコノミースイッチ……P13
● リコイルスタータハンドル……P13
● 電圧調整ノブ……P14
● 電圧計／アワーメーター……P14
● 単相・三相切替スイッチ……P15
● 交流コンセント……P15
● 携帯工具……P15
はじめてお使いになる前に……P16
● 燃料（自動車用レギュラーガソリン）の給油……P16
● エンジンオイルの給油……P17
● バッテリの取り付け……P19
正しい運転操作……P21
● エンジンの始動（エレクトリック始動の場合）……P21
● エンジンの始動（リコイル始動の場合）……P23
● エンジンの停止……P25
● 単相・三相切替スイッチの使いかた……P26
● 交流電源の取り出しかた……P27
● 交流電源の使用可能範囲……P30
点検……P31
● 始業点検……P31
● 定期点検……P31
始業点検……P32
● 燃料（自動車用レギュラーガソリン）の点検……P32
● エンジンオイルの点検……P33
● その他の点検……P34
定期点検表……P35
定期運転・定期交換……P36
● 定期運転……P36
● 定期交換……P36
定期点検・整備ご相談窓口のご案内……P37
点検・調整……P38
● スパークプラグの点検と清掃……P38
● エンジンオイルの交換……P40
● エアクリーナエレメントの清掃……P42
● マフラーワイヤネットの清掃……P44
● フューエルストレーナの清掃……P46
● 燃料タンクストレーナの清掃……P47
● バッテリの点検……P48
● ヒューズの交換……P49
運搬……P50
保管・格納……P52
● 保管……P52
● 格納……P54
故障診断……P56
● エンジンが始動しない……P56
● 電気が出ない……P56
仕様諸元……P57
結線図……P59
索引……P61

本体識別番号

● **本体識別番号**

商品名、本体識別番号（本体識別番号ラベル ①）などは問い合わせや部品を注文するときのために記入しておいてください。

万一の盗難時のために商品名、本体識別番号は他の資料にも記録しておいてください。



商 品 名	
本体識別番号	
購入年月日	年　　月　　日
	電話

本体識別番号

7P6- ★★★★★★

お客様ご相談窓口のご案内

お買いあげいただきました商品についてのお問い合わせ・ご相談は下記の「カスタマーコミュニケーションセンター」へお願いいたします。

ヤマハ発動機株式会社
カスタマー コミュニケーション センター
〒438-8501 静岡県磐田市新貝2500

0120-090-819

受付時間　月曜～金曜
（祝日、弊社所定の休日等を除く）
9:00～12:00　13:00～17:00

お問い合わせの際、お客様へ確実に迅速に対応させていただくため、あらかじめ下記の事項をご確認の上、ご相談ください。

① モデル名
② 製造番号（本体識別番号）
③ ご購入年月日
④ ご購入先

ヤマハ発電機をよりご理解いただくためにホームページもご参照ください。
ヤマハインターネットホームページ
http://www.yamaha-motor.co.jp/generator/

安全にお使いいただくためにお守りください

運転、保守、点検の前に必ずこの取扱説明書とその付属書類、および商品本体に貼付されているラベル全てを熟読し、正しくご使用ください。商品の知識、安全の情報そして注意事項の全てに習熟してからご使用ください。

⚠警　告（行為を禁止する警告文）

- 警告ラベルを汚したり、はがしたりしないでください。
- 排気ガス中毒のおそれあり、排気ガスがこもる場所で使用しないでください。排気ガスは一酸化炭素など有害成分を含んでいますので、室内、車内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク、マンホールなど換気の悪い場所や建物や遮へい物で風通しの悪い場所などの排気ガスがこもる場所で使用しないでください。
- 商品の周囲を囲ったり、箱をかぶせて使用しないでください。
- 商品の上にものを乗せて使用しないでください。
- 火災のおそれあり、この発電機は車載用ではありません。車両に積載したまま使用しないでください。
- ヤケドや火災のおそれあり、使用中や使用直後はマフラー部が熱いので、マフラーやマフラー周辺のプロテクタに手足を直接触れたり、カバーを掛けたりしないでください。
- 火災のおそれあり、給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。
- 火災のおそれあり、商品の周囲や下に危険物（油脂類、セルロイド、火薬など）や燃えやすいもの（枯れ草、わらくず、紙くず、木くずなどの可燃物）を置かないでください。
- 感電、火災のおそれあり、電力会社の電気配線に接続しないでください。接続しますと電気器具や商品の故障、または火災や電気工事関係者の感電事故の原因となります。
- 感電のおそれあり、ぬれた手で商品を操作したり、雨や雪など水のかかる場所では使用しないでください。
- 感電のおそれあり、コンセントにピンや針金などの金属物を差し込まないでください。
- 感電やけがのおそれあり、運転中は点検整備を行わないでください。
- 感電やけがのおそれあり、改造したり、部品を取り外したまま使用しないでください。

⚠警　告（行為を指示する警告文）

- 商品を他人に貸すときは、必ず取扱説明書もいっしょに貸してください。
- 排気ガス中毒や火災のおそれあり、本機を建物や設備から 1 メートル以上離して使用してください。
- 火災のおそれあり、燃料の給油はエンジンを停止し、換気の良い場所で行ってください。

燃料のガソリンは、高い引火性と爆発性がありますので、取り扱いは充分注意してください。特にエンジン始動前には、ガソリンの漏れがないことを確認してください。
- 火災のおそれあり、給油時にこぼれた燃料は布きれなどできれいにふき取ってください。
- 燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は、石鹸と水で直ちに洗い、衣類は取り替えてください。
- 燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入ったりした場合には、直ちに医師の診察を受けてください。

⚠注　意（行為を禁止する注意文）

- けがのおそれあり、傾斜させて使用しないでください。
- けがのおそれあり、運転中は移動させないでください。
- けがのおそれあり、商品の回転部に棒や針金を入れないでください。
- 感電のおそれあり、運転中はスパークプラグにさわらないでください。
- 感電、けがのおそれあり、子供に使用させないでください。
- 感電、けがのおそれあり、エンジンを始動する前に電気器具を接続しないでください。
- 火災のおそれあり、定格出力を超えた過負荷で使用しないでください。
- 火災のおそれあり、エンジン部、マフラー部が充分に冷えるまで、発電機にカバーを掛けないでください。

⚠注　意（行為を指示する注意文）

- 火災のおそれあり、燃料の種類と規定容量を守って使用してください。
- 商品を自動車などで運搬する場合には、燃料を抜いて倒れないようにしっかり固定してください。
- 毎回使用前に行う始業点検や定期点検は必ず実施してください。
- 使用中に音、臭気、振動などの異状を感じたら、直ちにエンジンを停止してヤマハ発電機販売店またはサービス店の点検を受けてください。

環境への配慮

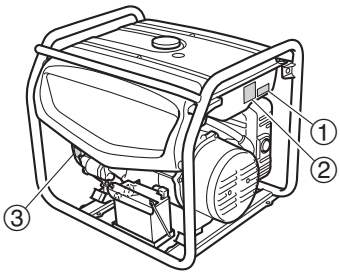
将来、廃棄される場合および廃油などの廃棄処理をされるときは、環境保護のため、お買いあげのヤマハ発電機販売店またはサービス店にご相談ください。

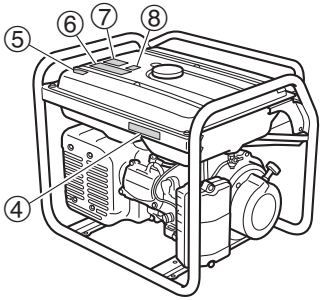
重要ラベル

商品本体に貼付されているラベル全てを熟読し、正しくご使用ください。

要　点

ラベルは常に手入れを行い、破れたりはがれたりした場合はヤマハ発電機販売店またはサービス店にご相談して、直ちに新しいものと交換してください。





⚠警　告 ラベル

①

⚠警　告	
	やけどのおそれあり、マフラーにさわらないこと。　高温注意

7C3-F8176-00

⑥

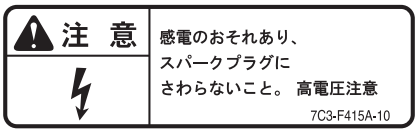
⚠警　告

火気厳禁 火災や爆発のおそれあり •給油中はエンジン停止のこと。 •ガソリン給油中に火気を近づけないこと。 •こぼれたガソリンは完全に拭き取ること。 •燃料は赤レベル(規定量)以上入れないこと。 •可燃物のそばで使用しないこと。 •建物・設備に排気を向けないこと。	感電や火災のおそれあり •電力会社からの電気配線に接続しないこと。
	感電のおそれあり •雨や雪の中で使用しないこと。 •コンセントに濡れた手でさわらないこと。
排気ガス中毒のおそれあり •屋内など換気の悪い場所で使用しないこと。 •人・建物・設備に排気を向けないこと。	**⚠注　意** ご使用前に必ず取扱説明書をよく読んで安全にお使いください。

7C3-F4162-00

⚠注　意 ラベル

④



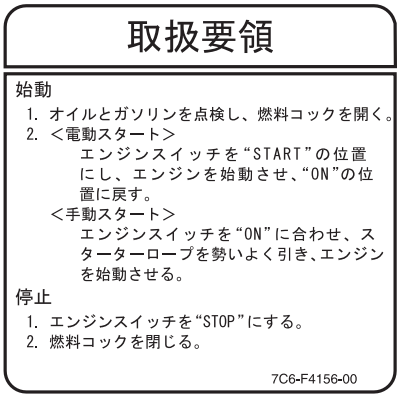
その他ラベル

② 本体識別番号ラベル（P1 参照）

③ オイル

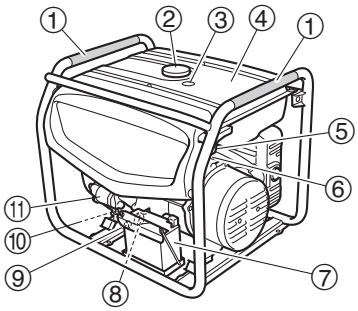
⑤ 排気方向

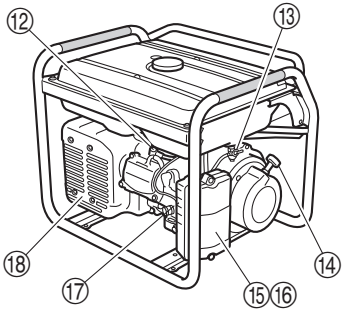
⑦ 取扱要領

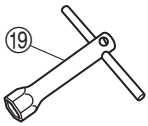


⑧「LEMA」ラベル
（「排出ガス」自主規制適合マーク）

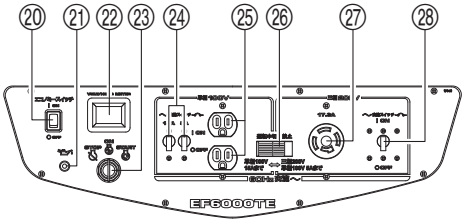
各部の名称

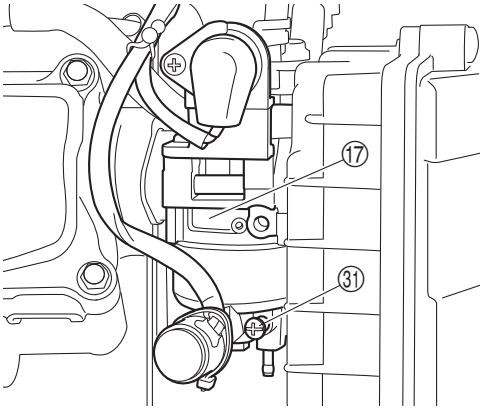


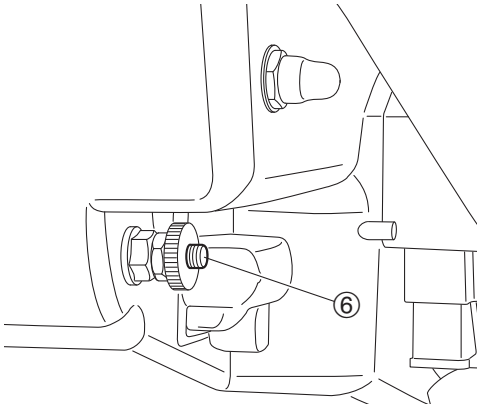


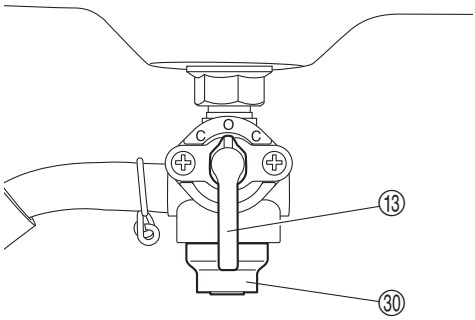


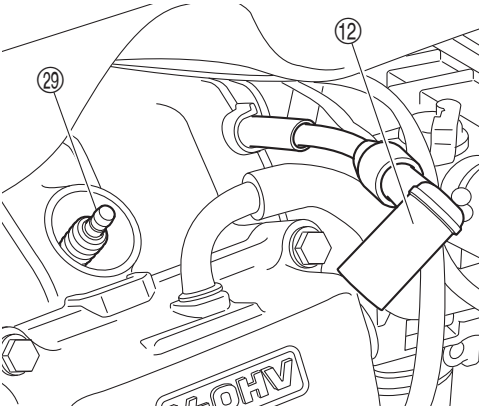
① ハンドル
② 燃料タンクキャップ
③ 燃料残量計
④ 燃料タンク
⑤ 電圧調整ノブ
⑥ アース端子
⑦ バッテリ
⑧ オイルプラグ（オイル注入口）
⑨ エンジンオイルドレンボルト
⑩ オイル警告装置（エンジン内）
⑪ セルモータ
⑫ スパークプラグキャップ
⑬ 燃料コック
⑭ リコイルスタータハンドル
⑮ エアクリーナ
⑯ エアクリーナエレメント
（エアクリーナ内）
⑰ キャブレタ
⑱ マフラー
⑲ スパークプラグレンチ
⑳ エコノミースイッチ
㉑ オイル警告ランプ（赤色）
㉒ 電圧計／アワーメーター
㉓ エンジンスイッチ
㉔ 交流スイッチ（交流単相 100V）
㉕ 交流コンセント（交流単相 100V）
㉖ 単相・三相切替スイッチ
㉗ 交流コンセント（交流三相 200V）
㉘ 交流スイッチ（交流三相 200V）
㉙ スパークプラグ
㉚ ストレーナカップ
㉛ ドレンスクリュ

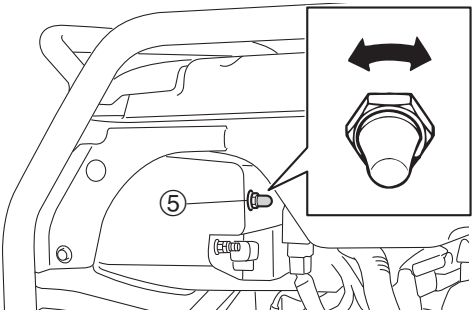

⑳
㉑
㉒
㉓
㉔
㉕
㉖
㉗
㉘
ERGODOTTE


⑰
㉛


⑥


⑬
㉚


⑫
㉙


⑤

各部の取り扱い

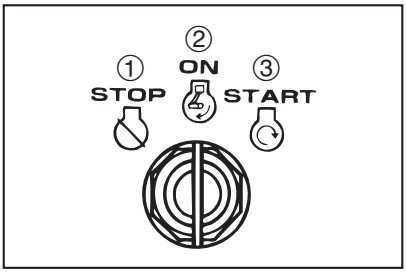
● **エンジンスイッチ**

点火系統を制御し、エンジンの運転、停止を行います。

①STOP（停止）— エンジン停止および保管時の位置です。

②ON（運転）—— エンジン運転時の位置です。

③START(始動) — セルモータが回転し、エンジンが始動します。



⚠注　意

- **セルモータを連続して 5 秒以上回転させないでください。消費電力が多いためバッテリ上がりの原因となります。**
- **発電機を使用しないときは、エンジンスイッチを STOP（停止）の位置にして、キーを抜いてください。**

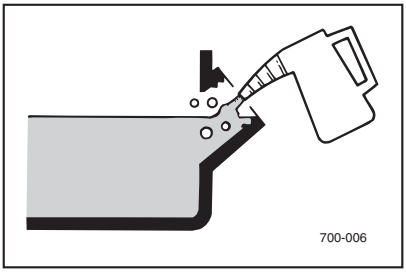
要　点

START（始動）の位置でエンジンがかかったら、エンジンスイッチから手を放してください。キーは自動的に ON（運転）の位置に戻ります。

● **オイル警告装置**

エンジンオイル量が少なくなって潤滑不足になる前に、自動的にエンジンを停止させます。

エンジンオイル量が少ない状態でエンジンが停止したときは、リコイルスタータハンドルを引いても、エンジンスイッチを START（始動）の位置にしても、エンジンは始動しません。エンジンオイル量を確認し、エンジンオイルを規定量（注入口の口元）まで給油します。



⚠注　意

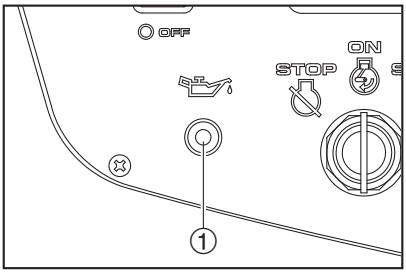
エンジンオイルを規定量以上に給油しないでください。エンジンオイルを入れ過ぎた状態で始動すると、エンジンが停止する、白煙が出るなど、不調の原因となります。

要　　点

- エンジンオイルの給油のしかたは「● エンジンオイルの給油」（P17）も参照してください。
- エンジンオイルの給油は発電機本体を水平状態にして行ってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。

- **オイル警告ランプ（赤色）**

  オイル警告ランプ（赤色）① は運転中にエンジンオイル量が規定以下になると点灯し、自動的にエンジンを停止させます。また、始動時にエンジンオイル量が規定以下になっているとリコイルスタータハンドルを引いても、エンジンスイッチを START（始動）の位置にしても、オイル警告ランプ（赤色）が点灯し、エンジンは始動しません。



要　　点

エンジンが停止したり始動しない場合は、リコイルスタータハンドルを引きながら、またはエンジンスイッチを START（始動）の位置にしながらオイル警告ランプ（赤色）を確認してください。オイル警告ランプ（赤色）が点灯するときはエンジンオイルが不足していますので、オイル補充後、再度エンジンを始動してください。

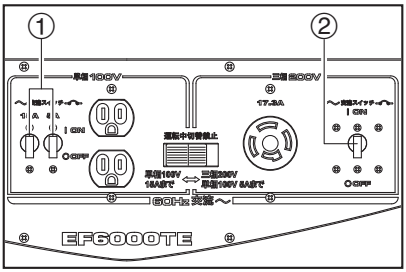
各部の取り扱い（つづき）

● **交流スイッチ**

交流スイッチ（交流単相 100V）① と、交流スイッチ（交流三相 200V）② が装備されています。

ON（入）— 交流電源が取り出せます。

OFF（切）— 交流電源が取り出せません。



⚠注　意

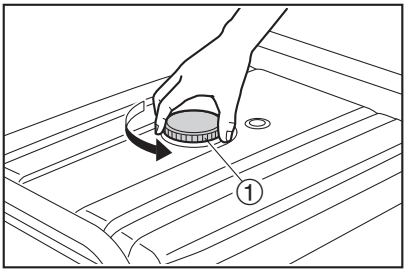
電気器具を使用中に交流スイッチが OFF（切）になる場合は、接続されている負荷を発電機の指定定格出力以内に減らしてください。それでも OFF（切）になる場合はヤマハ発電機販売店またはサービス店に相談してください。

要　点

電気器具を使用中に定格以上の電流が流れると自動的に交流スイッチは OFF（切）になります。再度使用する場合は交流スイッチを ON（入）にしてください。

● **燃料タンクキャップ**

燃料タンクキャップ ① は反時計方向に回して取り外します。



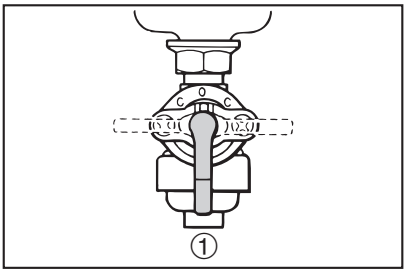
⚠警　告

給油後は燃料タンクキャップを確実に締めてください。

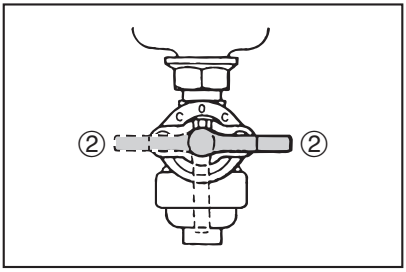
● **燃料コック**

燃料コックは燃料の流れを制御します。

①ON（開）— 燃料は流れます。
始動および運転時のレバーの位置です。

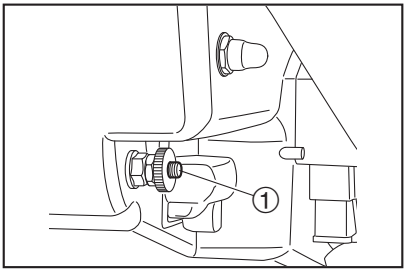


②OFF（閉）— 燃料は流れません。
停止および保管時のレバーの位置です。



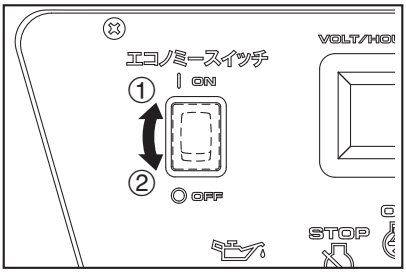
● **アース端子**

感電防止のアース線を取り付ける端子です。
アース端子 ① から地面にアースしてください。
使用する電気器具をアースしたときは、発電機も必ずアースしてください。



各部の取り扱い（つづき）

● **エコノミースイッチ**



①ON —（作動中） エコノミーアイドル装置が作動します。電気器具を運転すると、自動的にエンジンは定格回転となり、運転しないときは自動的に低速回転になります。

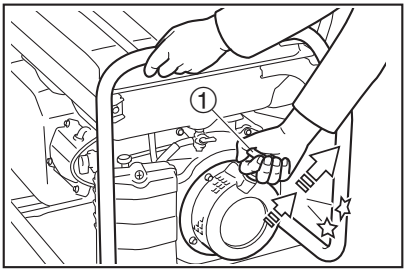
②OFF —（解除） エコノミーアイドル装置が解除されます。電気器具の使用の有無にかかわらず、エンジンは定格回転で運転します。

要　点

コンプレッサや水中ポンプなど、起動時に大電流が流れる電気器具を使用する場合は、エコノミースイッチを OFF（解除）にしてください。

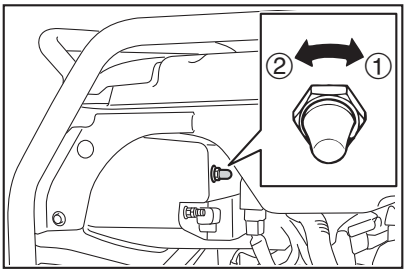
● **リコイルスタータハンドル**

リコイルスタータハンドル①は、エンジンを始動させるときに使用します。



● **電圧調整ノブ**

交流（AC）三相用 200V の出力電圧を 160V から 220V の範囲で変化させることができます。



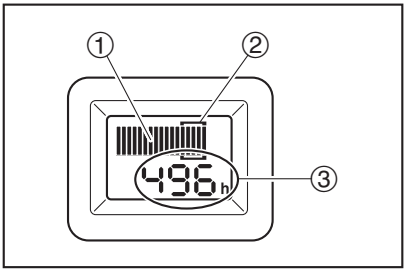
要　点

延長コードの使用などにより電圧降下がみられる場合は電圧の調整をしてください。

① 出力電圧が上昇します。
② 出力電圧が下降します。

● **電圧計／アワーメーター**

電圧計 ① はエンジン運転中に発生する交流（AC）の電圧をセグメントの数で表示します。



要　点

セグメントの表示が適正電圧 ② を超えているとき、発電機は定格出力の上限に達しています。

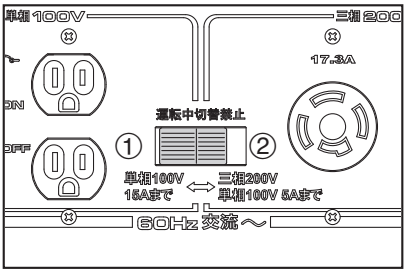
アワーメーター ③ は発電機の運転時間を積算し、表示します。

各部の取り扱い（つづき）

● **単相・三相切替スイッチ**

① 単相 ———— 交流（AC）単相 100V/15A を取り出すことができます。

② 三相／単相 — 交流（AC）三相 200V と単相 100V/5A まで取り出すことができます。



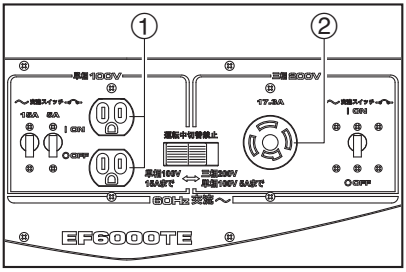
● **交流コンセント**

交流（AC）の単相 100V/ 三相 200V を取り出すことができます。

取り出しかたは、「正しい運転操作」の「● 単相・三相切替スイッチの使いかた」(P26)「●交流電源の取り出しかた」（P27）を参照してください。

① 交流コンセント（交流単相 100V）

② 交流コンセント（交流三相 200V）



● **携帯工具**

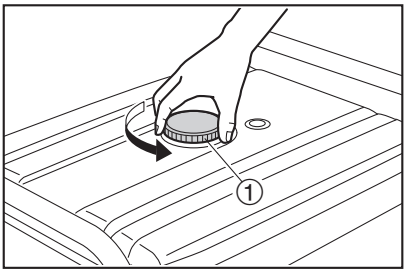
発電機に携帯工具が同梱されています。点検・調整の際にご使用ください。

はじめてお使いになる前に

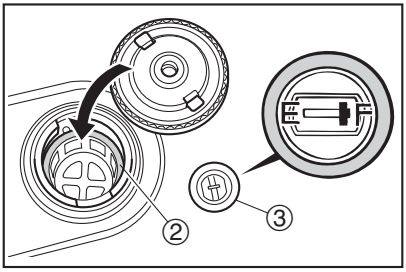
● **燃料（自動車用レギュラーガソリン）の給油**

燃料タンクキャップ① を外し、燃料（自動車用レギュラーガソリン）をストレーナの赤レベル② まで給油します。

燃料タンク内の燃料の残量は、燃料残量計 ③ により確認できます。



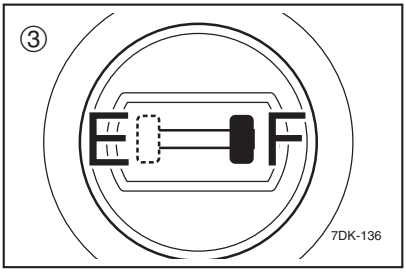
使用燃料：
　無鉛ガソリン（自動車用レギュラーガソリン）
燃料タンク容量：
　24L



⚠警　告

燃料のガソリンは高い引火性と爆発力があるので、次の事項を必ず守ってください。

- **給油は、換気の良い場所でエンジンを停止してから行ってください。**
- **給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。また、給油ノズルを給油口に当てるなどして静電気が発生しないように注意して行ってください。**
- **燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入ったりした場合は、直ちに医師の診断を受けてください。また燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は石鹸と水で直ちに洗い、衣類は取り替えてください。**
- **燃料タンクキャップは確実に締めてください。**



⚠注　意

- **燃料の給油時、燃料タンク内に水・雪・氷・ゴミが入らないように注意してください。また、こぼれたときは、直ちに布きれなどで完全にふき取ってください。**
- **燃料は規定量以上（ストレーナの赤レベル以上）給油しないでください。**

はじめてお使いになる前に（つづき）

要　点

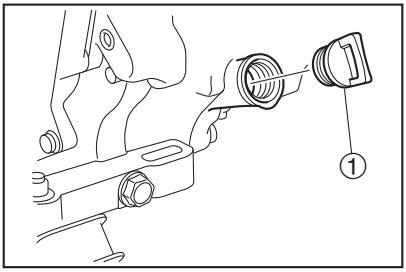
- 燃料はゆっくりと給油してください。
- 燃料は全部なくなる前に、できるだけ早めに補給してください。

- **エンジンオイルの給油**

⚠注　意

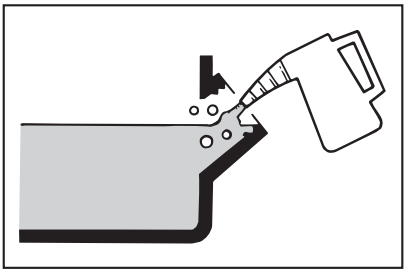
- **工場出荷時にはエンジンオイルが給油されていませんので、購入後、最初に使用するときはエンジンオイルを規定量給油してください。**
- **エンジンオイルを規定量以上に給油しないでください。エンジンオイルを入れ過ぎた状態で始動すると、エンジンが停止する、白煙が出るなど、不調の原因となります。**

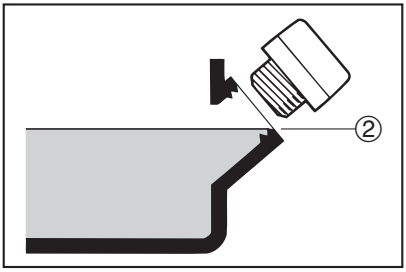
1. オイルプラグ ① を取り外します。



2. エンジンオイルを規定量②(注入口の口元まで)給油します。

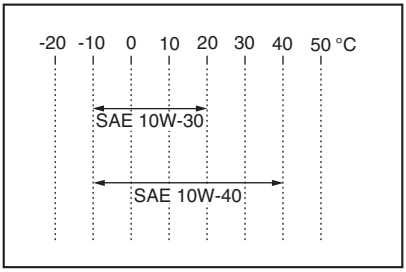
推奨オイル：
ヤマルーブスタンダードプラスまたは
4ストロークガソリンエンジンオイル
SAE 10W-30 もしくは 10W-40
グレード：
API 分類 SE 級以上
エンジンオイル規定量：
1.1L





要　点

- エンジンオイルを交換するときは、「● エンジンオイルの交換」（P40）を参照してください。
- エンジンオイルの給油は、発電機本体を水平状態にして行ってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。



3. オイルプラグを取り付け、確実に締め付けます。

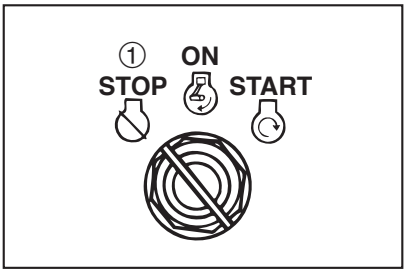
はじめてお使いになる前に（つづき）

● バッテリの取り付け

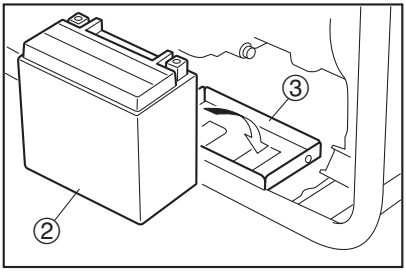
⚠警　告

規定以外のバッテリは使用しないでください。

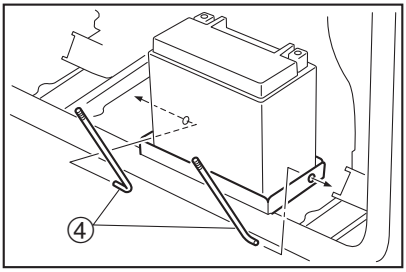
1. エンジンスイッチを STOP（停止）① の位置にしてエンジンを停止します。

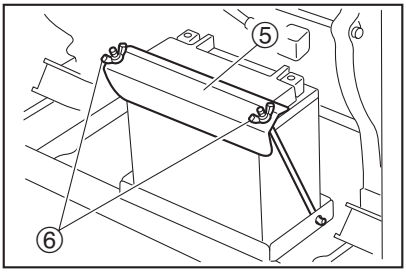


2. バッテリ ② をバッテリトレイ ③ の上に置きます。

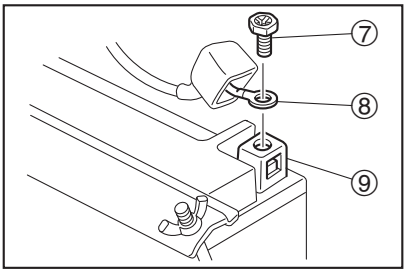


3. ステー④とバッテリプレート⑤を取り付けて、ウイングナット ⑥ を締め付けます。

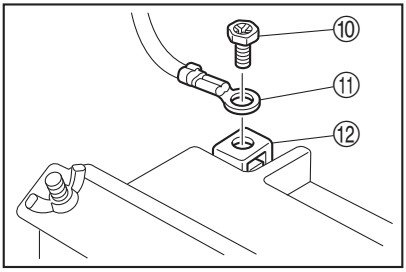




4. ⊕プラスリード線⑧（赤色）をバッテリのプラス端子⑨にボルト⑦で取り付けます。



5. ⊖マイナスリード線⑪（黒色）をバッテリのマイナス端子⑫にボルト⑩で取り付けます。



要　点

⊕プラスリード線（赤色）を先にバッテリのプラス端子に取り付け、次に⊖マイナスリード線（黒色）をバッテリのマイナス端子に取り付けます。端子の位置を逆にしないでください。

正しい運転操作

● エンジンの始動（エレクトリック始動の場合）

⚠警　告

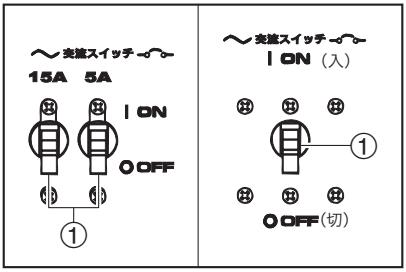
換気や風通しが不充分で排気ガスがこもる場所ではエンジンを始動しないでください。

⚠注　意

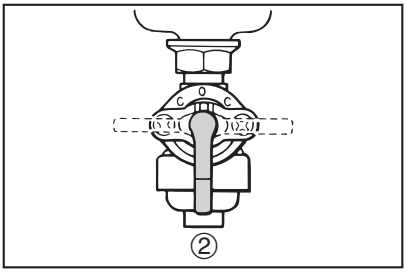
エンジンを始動する前に電気器具を接続しないでください。

1. 燃料（自動車用レギュラーガソリン）の量を点検します。

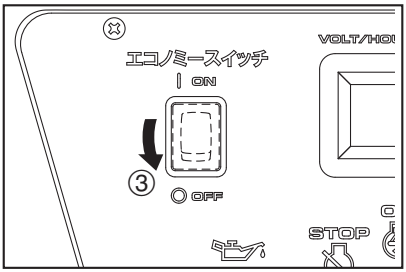
2. 交流スイッチ①を OFF（切）にします。



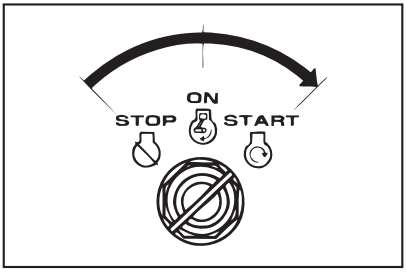
3. 燃料コックを ON（開）②にします。



4. エコノミースイッチを OFF（解除）③ にします。



5. エンジンスイッチを START（始動）にしてエンジンを始動します。



⚠注　意

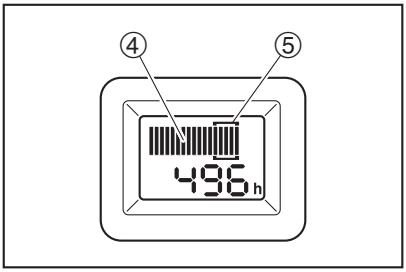
- **セルモータを連続して 5 秒以上回転させないでください。消費電力が多いため、バッテリ上がりの原因となります。**
- **発電機を使用しないときは、エンジンスイッチを STOP（停止）の位置にして、キーを抜いてください。**

要　点

START（始動）の位置でエンジンがかかったら、エンジンスイッチから手を放してください。キーは自動的に ON（運転）の位置に戻ります。

6. しばらく暖機運転します。

7. 電圧計のセグメント ④ が適正電圧 ⑤ を示しているか確認します。



正しい運転操作（つづき）

● エンジンの始動（リコイル始動の場合）

⚠警　告

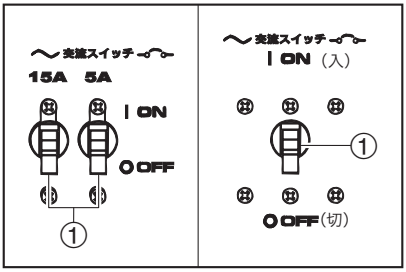
換気や風通しが不充分で排気ガスがこもる場所ではエンジンを始動しないでください。

⚠注　意

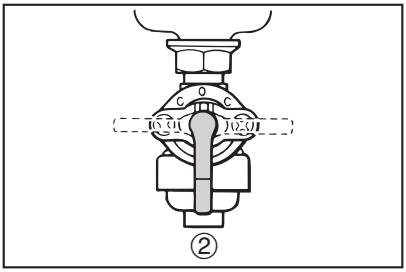
エンジンを始動する前に電気器具を接続しないでください。

1. 燃料（自動車用レギュラーガソリン）の量を点検します。

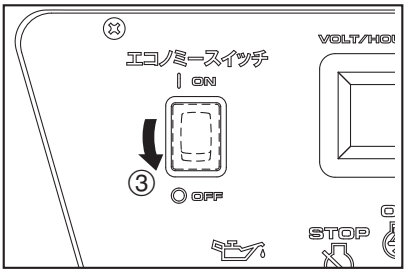
2. 交流スイッチ①を OFF（切）にします。



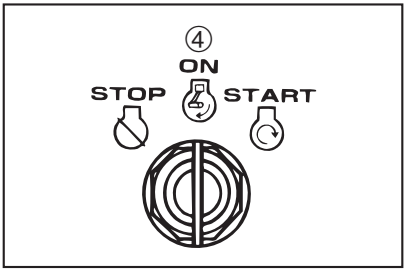
3. 燃料コックを ON（開）②にします。



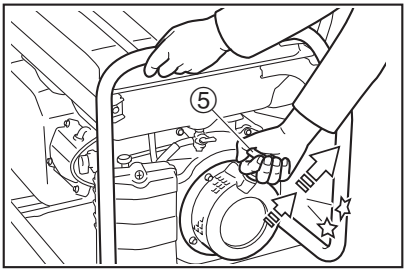
4. エコノミースイッチを OFF（解除）③ にします。



5. エンジンスイッチを ON（運転）④ の位置にします。



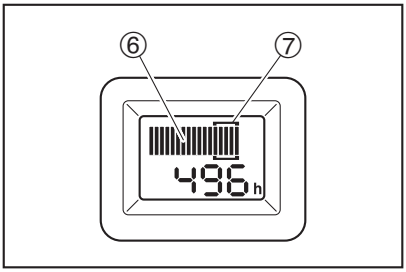
6. リコイルスタータハンドル ⑤ を軽く引き出し、リコイルスタータハンドルが重くなった状態から勢いよく引いてエンジンを始動します。



⚠注　意

- **リコイルスタータハンドルを引くときは、発電機が倒れないように手でハンドルを押さえてください。**
- **リコイルスタータハンドルを戻すときは、ゆっくりと戻してください。**

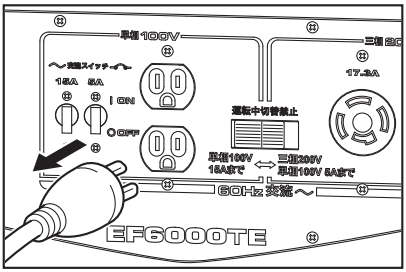
7. しばらく暖機運転します。
8. 電圧計のセグメント ⑥ が適正電圧 ⑦ を示しているか確認します。



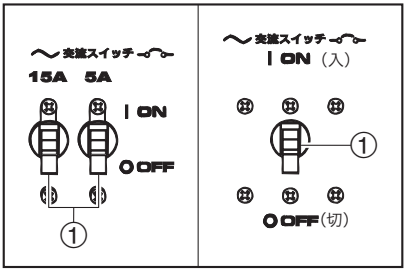
正しい運転操作（つづき）

● **エンジンの停止**

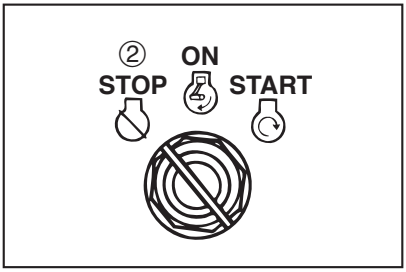
1. 電気器具のスイッチを OFF（切）にします。
2. 電気器具のプラグをコンセントから抜きます。



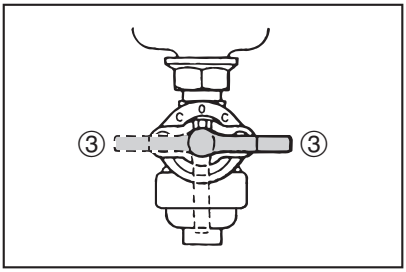
3. 交流スイッチ ① を OFF（切）にします。



4. エンジンスイッチを STOP（停止）② の位置にしてエンジンを停止します。



5. 燃料コックを OFF（閉）③ にします。

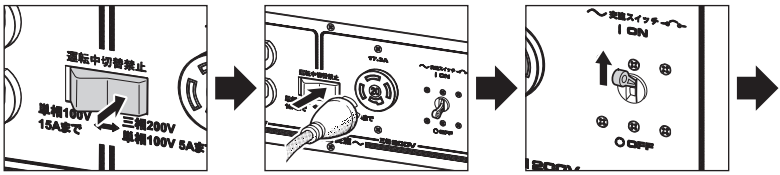


● **単相・三相切替スイッチの使いかた**

単相・三相切替スイッチを切り替えることにより、単相または三相の交流（AC）を取り出すことができます。

単相･三相切替スイッチを使うときは、必ず全ての交流スイッチを OFF にしてください。

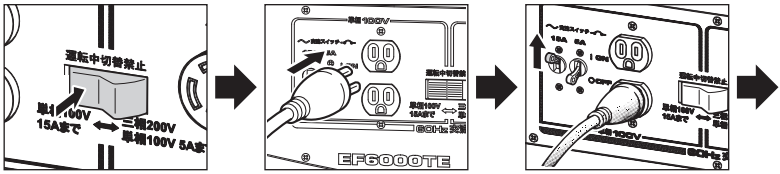
三相を使う場合



三相コンセントから交流（AC）が取り出せます。

また同時に単相コンセントからも 5A 以下の交流（AC）が取り出せます。

単相を使う場合



単相コンセントから交流が取り出せます。

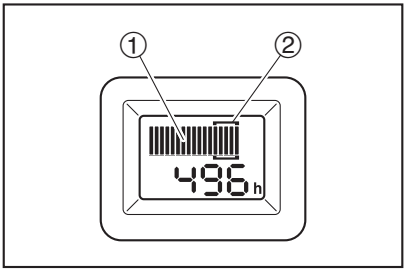
正しい運転操作（つづき）

- 交流電源の取り出しかた

⚠注　意

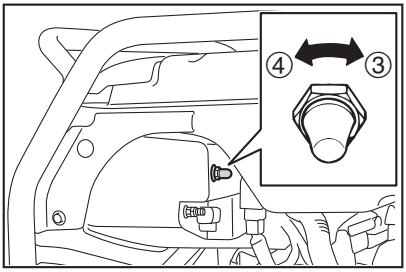
- **発電機は接続された電気器具の負荷の変化に合わせて電圧が変化しますので、電圧変化に敏感な電気器具は使用しないでください。**
- **接続の可否が不明確な場合は電気器具会社にご相談ください。**
- **コンセントにほこり、汚れ、水などが付いている場合は、除去してから使用してください。**

1. エンジンを始動します。
2. 電圧計のセグメント ① が適正電圧 ② を示しているか確認します。

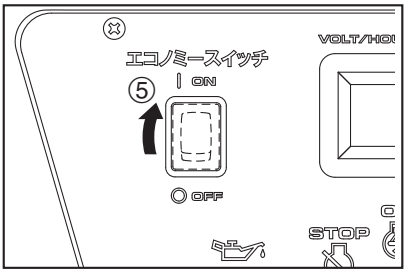


要　点

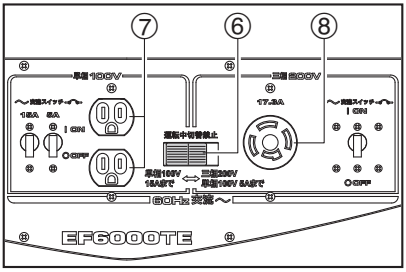
- 延長コードの使用などにより、交流（AC）三相 200V コンセントから取り出せる電気が 200V 以下になる場合があります。
  160V から 220V までの範囲で電圧調整ノブを調整してください。
- 延長コードの使用を止めた場合、電圧が上昇することがありますので、電圧調整ノブで再度調整してください。
  ③ 出力電圧が上昇します。
  ④ 出力電圧が下降します。



3. エコノミースイッチを ON（作動中）⑤にします。



4. 単相・三相切替スイッチ ⑥ を使いたいコンセントに応じて切り替えます。
5. 電気器具のプラグを交流コンセント⑦もしくは⑧に差し込みます。



要　点

電気器具のスイッチが OFF（切）になっていることを必ず確認してから差し込んでください。

交流コンセント⑦には、単相 100V で合計消費電流 15A 以下の電気器具のプラグ（アース付 3 本端子・市販品）を差し込みます。
交流コンセント⑧には、三相 200V で消費電流 14.4A 以下（50Hz 仕様）もしくは 17.3A 以下（60Hz 仕様）の電気器具のプラグを差し込みます。
（参考）
三相 200V 用プラグ

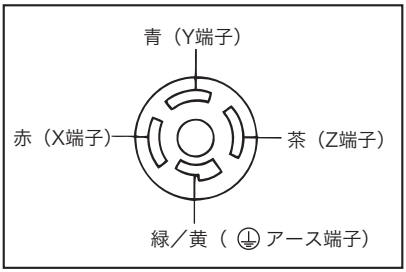
- パナソニック電工（株）製
  WF8420K
- （株）明工社製　MH2584

正しい運転操作（つづき）

要　点

- 三相 200V の 3 線式は X.Y.Z 端子と、4 線式は X.Y.Z.⏚（アース）端子と接続してください。
- 結線図は P59 を参照してください。

6. 交流スイッチを ON（入）にします。



● **交流電源の使用可能範囲**

交流電源は電気器具ごとに、おおむね下表の取り出し可能範囲まで使用できます。使用する電気器具の消費電力（W）をお確かめの上、ご使用ください。

電気器具	取り出し可能範囲				備考
	50Hz		60Hz		
	単相	三相	単相	三相	
照明・電熱器 ラジオ・テレビ ステレオなど	100V 1,500W まで	200V 5,000W まで	100V 1,500W まで	200V 6,000W まで	力率＝ 1
電動工具類	100V 1,200W 程度まで	200V 4,000W 程度まで	100V 1,200W 程度まで	200V 4,800W 程度まで	力率＝ 0.8 ～ 0.95
汎用モータ類	100V 750W 程度まで	200V 2,500W 程度まで	100V 750W 程度まで	200V 3,000W 程度まで	力率＝ 0.4 ～ 0.75

⚠注　意

- **電気器具の合計負荷が発電機の取り出し可能範囲を超えた過負荷で使用しないでください。発電機損傷の原因となります。**
- **精密機器・電子制御機器・パソコン・電子計算機・マイコン付機器および充電器類は電圧に敏感で、携帯用発電機からの電圧より均一の電圧供給を必要とするものがあります。このような機器を使用するときには、販売店に相談してください。**
- **精密機器・電子制御機器・パソコン・電子計算機・マイコン付機器および充電器類への使用は、発電機のエンジンノイズ（原動機雑音）の影響を受けない距離を確保してください。また、近くにある他の電気製品がエンジンノイズ（原動機雑音）に影響されないことを確認してください。**
- **電気工具類・汎用モータ類の一部には、取り出し可能範囲が上記表内の数値内でも起動電流が大きく使用できないものがあります。この場合は電気器具会社にご相談ください。**

要　点

取り出し可能範囲を超えた場合、または電気器具に異常があった場合は交流スイッチがOFF（切）になりますので、電気器具の容量を再確認してください。

点検

お客様の安全と、発電機の故障と事故を未然に防ぐために実施してください。

⚠警　告

- **エンジン運転中および停止直後は、エンジン本体、マフラー周辺のプロテクタやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。手足で直接触れないでください。ヤケドにご注意ください。**
- **排気ガスは、一酸化炭素など有害な成分を含んでいます。換気の悪い場所や、風通しの悪い場所でエンジンを始動しての点検はしないでください。**
- **重大な事故・故障の原因になりますので、始業点検・定期点検を必ず実施してください。**
- **異状が認められた場合は、ご使用のかたご自身、もしくはヤマハ発電機販売店またはサービス店で必ず整備を行ってください。**

- **始業点検**

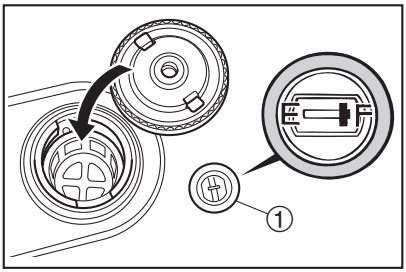
  お客様が発電機をご使用する前に点検を行ってください。
  点検箇所に異状がある場合は、ヤマハ発電機販売店またはサービス店で点検・整備を受けてください。

- **定期点検**

  お客様のお申し付けにより、ヤマハ発電機販売店またはサービス店が実施します。お客様の責任で必ず点検を受けてください。

始業点検

- **燃料（自動車用レギュラーガソリン）の点検**
  燃料タンクキャップを外して、燃料（自動車用レギュラーガソリン）の残量を点検します。
  燃料タンク内の燃料の残量は、燃料残量計 ① によっても確認できます。



使用燃料：
　無鉛ガソリン（自動車用レギュラーガソリン）
燃料タンク容量：
　24L

⚠警　告

燃料のガソリンは高い引火性と爆発力があるので、次の事項を必ず守ってください。

- **給油は、換気の良い場所でエンジンを停止してから行ってください。**
- **給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。また、給油ノズルを給油口に当てるなどして静電気が発生しないように注意して行ってください。**
- **燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入ったりした場合は、直ちに医師の診断を受けてください。また燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は石鹸と水で直ちに洗い、衣類は取り替えてください。**
- **燃料タンクキャップは確実に締めてください。**

⚠注　意

- **燃料の給油時、燃料タンク内に水・雪・氷・ゴミが入らないように注意してください。また、こぼれたときは、直ちに布きれなどで完全にふき取ってください。**
- **燃料は規定量以上（ストレーナの赤レベル以上）給油しないでください。**

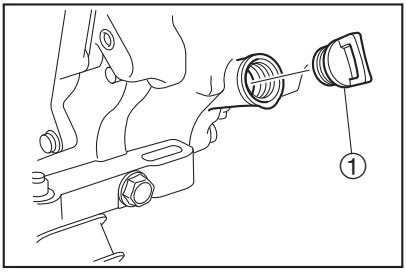
始業点検（つづき）

要　点

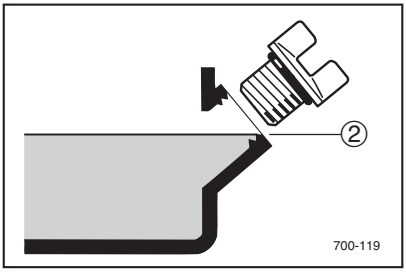
- 燃料はゆっくりと給油してください。
- 燃料は全部なくなる前に、できるだけ早めに補給してください。

● **エンジンオイルの点検**

1. オイルプラグ ① を取り外します。



2. エンジンオイルがオイル基準面 ② まであるか点検します。
   エンジンオイルが基準面より少ない場合は、エンジンオイルを注入口の口元まで給油します。



⚠注　意

エンジンオイルを基準面以上に給油しないでください。エンジンオイルを入れ過ぎた状態で始動すると、エンジンが停止する、白煙が出るなど、不調の原因となります。

要　点

- エンジンオイルの給油は発電機本体を水平状態にして行ってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。
- エンジンオイルを規定量入れないとエンジンは始動しません。

3. オイルプラグを取り付けます。

● **その他の点検**

「定期点検表」（P35）を参照してください。

定期点検表

対象部品	点検項目	始業点検	6ヶ月毎または100時間運転毎	12ヶ月毎または300時間運転毎
スパークプラグ	点検、清掃		○	
エンジンオイル	オイル量の点検	○		
	交換		○（*1）	
燃料	量、漏れ	○		
フューエルパイプ	亀裂、損傷の確認	○		
エアクリーナ	点検、清掃		○（*2）	
マフラーワイヤネット	清掃、損傷の確認		○	
燃料タンクストレーナ	清掃			○
フューエルストレーナ	清掃			○
ブリーザパイプ	亀裂、損傷の確認			○
シリンダーヘッド部	カーボンの除去			★
バルブクリアランス	点検			★
エンジン回転	調整			★
リコイルスタータ	損傷の確認			★
本体各部	各部のゆるみ確認			★
前日の作業で異状が認められた箇所		○		

*1…… 初回は 1 ヶ月目または 20 時間運転時に実施してください。

*2…… ほこりの多い場所で作業した場合は、定期点検時期より早めに点検を行ってください。

★…… この項目は整備に関する専門知識、工具、技術を必要としますので、ヤマハ発電機販売店またはサービス店へお申し付けください。

定期運転・定期交換

格納中であっても発電機を緊急で使用することが予測される場合は、ここに示す定期運転、定期交換を行って緊急時に備えてください。

- **定期運転**

  1 ヶ月に 1 度定期的に発電機を運転（約 10 分）し、電気器具を接続して運転状態を点検してください。

- **定期交換**

  燃料（自動車用レギュラーガソリン）を満タンの状態で保管する場合は、燃料の変質による始動不良を防止するため、3 ヶ月に 1 回は燃料タンク内の燃料を交換してください。

⚠警　告

- **本書での指示なき作業などを行うときにも、必ずエンジンを止めてください。**
- **お客様自身が整備作業についてあまり熟知されていない場合は、ヤマハ発電機販売店またはサービス店へ作業を依頼してください。**

交換部品は、必ず純正部品、または指定されたものを使ってください。

定期点検・整備ご相談窓口のご案内

ヤマハ商品の定期点検および整備に関しましては、ヤマハ発電機販売店またはサービス店にご遠慮なくご用命ください。

【ご注意】

1. 整備はヤマハ発電機販売店またはサービス店へのお持込みを原則とします。
2. 現地整備の場合には別途出張料金を申し受けます。
3. 土曜、日曜、祝日、年末年始、その他夏期等休業させていただく場合があります。
4. 区画整理、電話局の新増設などにより、住所、電話番号が変更になることがありますのであらかじめご了承ください。

点検・調整

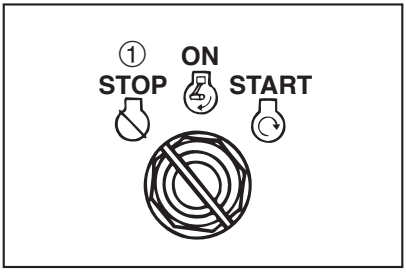
● **スパークプラグの点検と清掃**

スパークプラグは、点検が簡単な重要部品です。スパークプラグは徐々に劣化しますので、定期的に外して点検を行う必要があります。

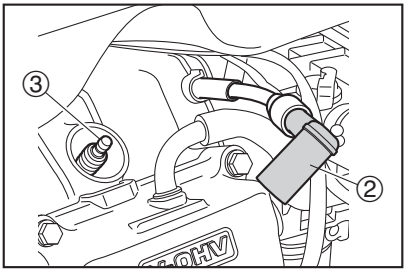
⚠警　告

エンジン停止直後は、スパークプラグやエンジン本体が熱くなっていますので、ヤケドに注意してください。

1. エンジンスイッチを STOP（停止）① の位置にしてエンジンを停止します。



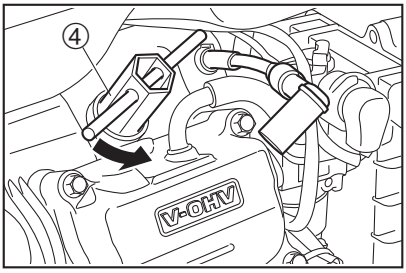
2. スパークプラグキャップ ② を取り外します。



3. スパークプラグレンチ ④ を使って、スパークプラグ ③ を外します。

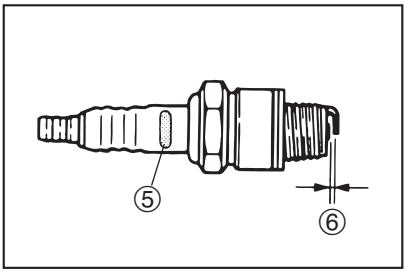
⚠警　告

スパークプラグの脱着の際は、碍子を損傷させないように注意してください。碍子が損傷すると、電気が漏れて火災などを誘発するおそれがあります。



点検・調整（つづき）

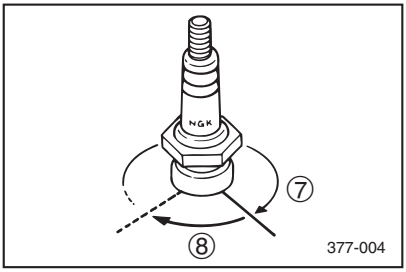
4. スパークプラグの焼け具合を点検します。
   通常はキツネ色に焼けますが、黒くくすぶっていたり白く焼けていたときはエアクリーナを点検します。
5. 電極付近の汚れ（カーボン）を落とします。
6. スパークプラグ認識番号 ⑤ とスパークプラグギャップ ⑥ を点検します。



スパークプラグ認識番号：
NGK　BPR4ES
スパークプラグギャップ：
0.7～0.8㎜

7. スパークプラグを取り付け、規定のトルクで締め付けます。

締付トルク：
20Nm（2.0kgf・m）



要　点

スパークプラグを取り付ける際にトルクレンチが準備できないときは、指でいっぱいに締め込んだ後 ⑦、プラグレンチを使って 1/4 ～ 1/2 回転 ⑧ 更に締め込んでください。
できるだけ早い時期に、トルクレンチを使って正規のトルクで締めてください。

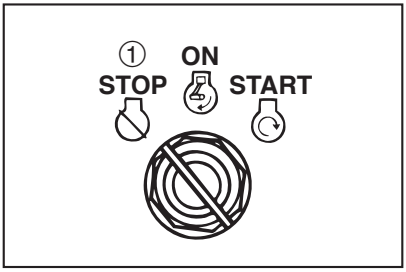
8. スパークプラグキャップを取り付けます。

● エンジンオイルの交換

⚠警　告

油脂類の廃液は法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられていますので、ヤマハ発電機販売店またはサービス店へご相談ください。

1. エンジンを始動し、2 ～ 3 分暖機運転します。
2. エンジンスイッチを STOP（停止）① の位置にしてエンジンを停止します。

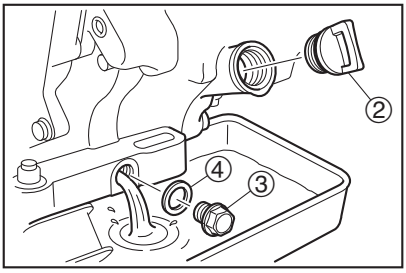


⚠警　告

エンジン停止直後はエンジンオイルが熱くなっていますので、すぐに排出しないでください。

3. 排出するエンジンオイルを受け取る容器をエンジンの下に用意します。

4. オイルプラグ ②、エンジンオイルドレンボルト ③、ガスケット ④ を取り外してエンジンオイルを抜きます。



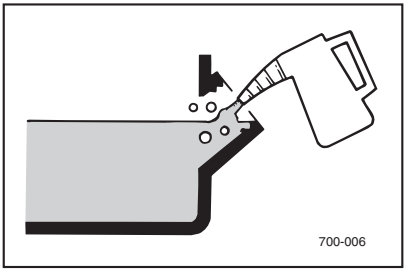
要　点

初回は 20 時間目、その後は 100 時間毎に交換してください。

5. 新しいガスケットとエンジンオイルドレンボルトを取り付け、エンジンオイルドレンボルトを規定のトルクで締め付けます。

エンジンオイルドレンボルト
規定トルク：
27Nm（2.7kgf・m）

6. 新しいエンジンオイルを規定量（注入口の口元まで）給油します。



推奨オイル：
ヤマルーブスタンダードプラスまたは
4ストロークガソリンエンジンオイル
SAE 10W-30 もしくは 10W-40
グレード：
API 分類 SE 級以上
エンジンオイル規定量：
1.1L

⚠注　意

エンジンオイルを規定量以上に給油しないでください。エンジンオイルを入れ過ぎた状態で始動すると、エンジンが停止する、白煙が出るなど、不調の原因となります。

要　点

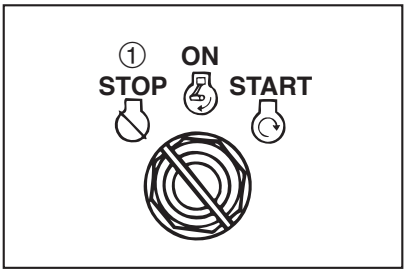
- エンジンオイルの給油は発電機本体を水平状態にして行ってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。

7. オイルプラグを取り付け、確実に締め付けます。

● **エアクリーナエレメントの清掃**

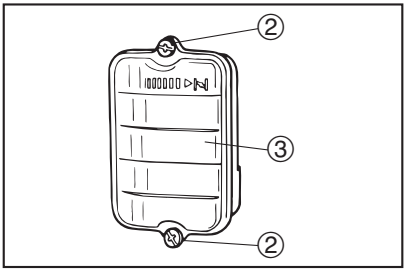
要　点

ほこりの多い場所で使用した場合は、定期点検時期より早めに清掃してください。

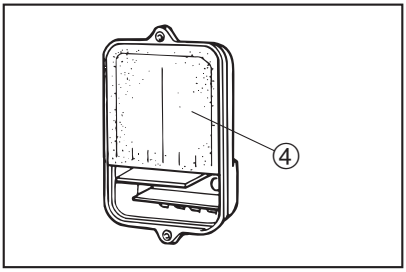


1. エンジンスイッチを STOP（停止）① の位置にしてエンジンを停止します。

2. スクリュ ② を取り外し、エアクリーナカバー ③ を取り外します。



3. エレメント ④ をエアクリーナ本体から外します。
4. エレメントをきれいな白灯油で洗浄します。

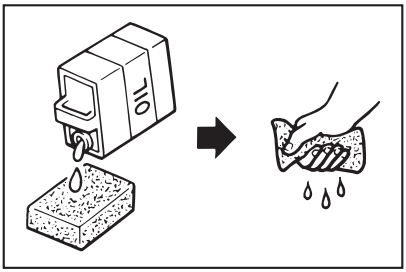


⚠警　告

- **タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。**
- **油脂類の廃液は法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられていますので、ヤマハ発電機販売店またはサービス店へご相談ください。**

点検・調整（つづき）

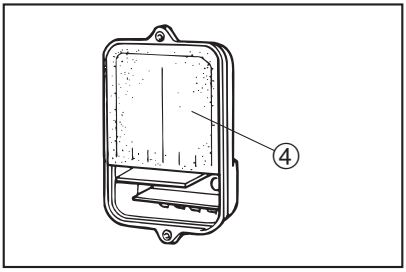
5. エレメントをエンジンオイルなどにひたし、その後余分なオイルを取り除きます。



⚠注　意

エレメントは絶対にきつく絞らないでください。破れてエンジンが不調になることがあります。

6. エレメント④をエアクリーナ本体にはめ込みます。



⚠注　意

エレメントを取り付けていない状態ではエンジンを絶対に始動させないでください。ピストンやシリンダーの摩耗の原因になります。

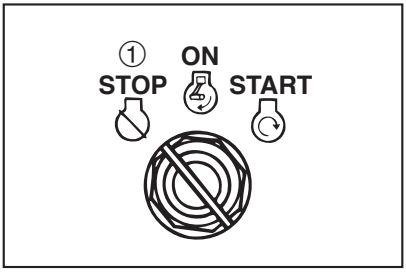
7. エアクリーナカバーを元の位置に戻し、スクリュを締め付けます。

● マフラーワイヤネットの清掃

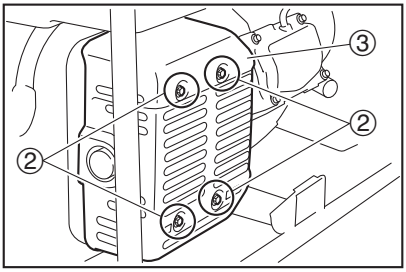
⚠警　告

エンジン停止直後はエンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっていますので、ヤケドに注意してください。点検や整備は、充分にエンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが冷えてから行ってください。

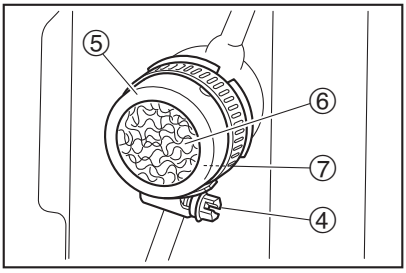
1. エンジンスイッチを STOP（停止）① の位置にしてエンジンを停止します。



2. マフラーカバーボルト ② を取り外して、マフラーカバー ③ を取り外します。

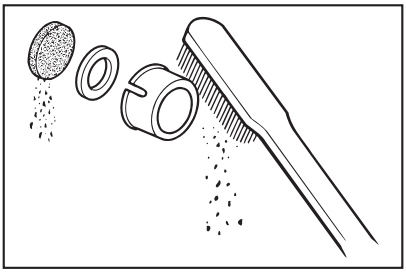


3. マフラーキャップボルト ④ をゆるめて、マフラーキャップ ⑤、マフラーワイヤネット ⑥、ワッシャー ⑦ を取り外します。

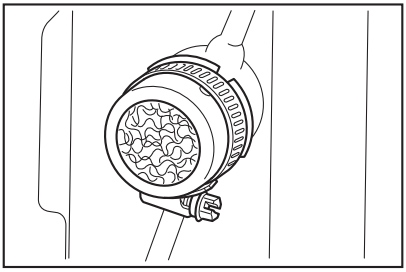


点検・調整（つづき）

4. ワイヤブラシを使用して、マフラーワイヤネット、ワッシャーとマフラーキャップの汚れを取り除きます。



5. マフラーワイヤネット、ワッシャーとマフラーキャップを取り付けて、マフラーキャップボルトを締め付けます。

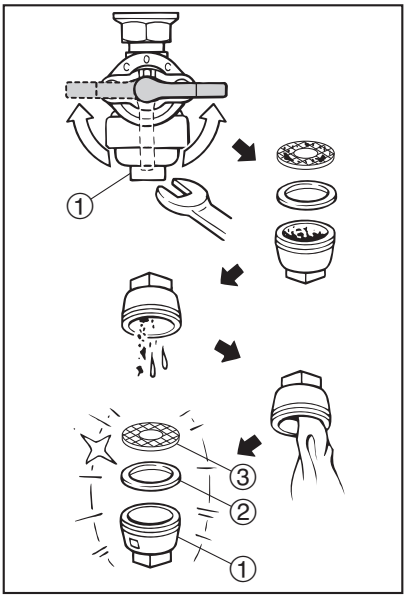


締付トルク：
2.0Nm（0.20kgf・m）

6. マフラーカバーを取り付けて、マフラーカバーボルトを締め付けます。

締付トルク：
12Nm（1.2kgf・m）

● フューエルストレーナの清掃



要　点

ストレーナが短期間に汚れる場合は、燃料タンク内に汚れが溜まっていることがあります。
ヤマハ発電機販売店またはサービス店にご相談ください。

1. 燃料コックを OFF（閉）にします。
2. ストレーナカップ ① を取り外します。

要　点

ストレーナカップにゴミがある場合は定期点検時期より早めに清掃してください。

3. ガスケット ②、ストレーナ ③ を取り外します。
4. ストレーナカップ、ストレーナをガソリンで洗浄します。

⚠警　告

タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。

5. ガスケットを点検します。

要　点

ガスケットが破損している場合は新品と交換します。

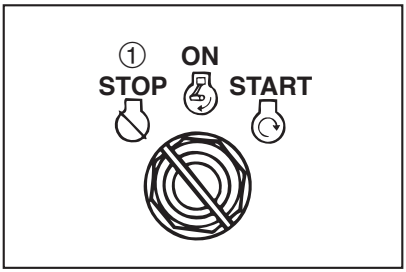
6. ストレーナ、ガスケットおよびストレーナカップを取り付けます。
7. 取り付け後は燃料漏れがないかを確認します。

⚠警　告

取り付けが悪いと燃料漏れをおこし、火災や爆発の原因になるおそれがあります。

点検・調整（つづき）

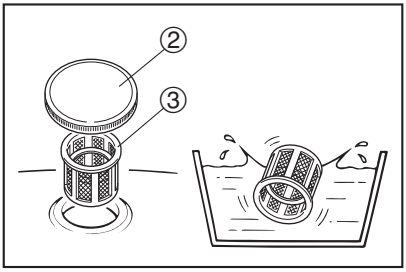
● 燃料タンクストレーナの清掃



要　点

ストレーナが短期間に汚れる場合は、燃料タンク内に汚れが溜まっていることがあります。

1. エンジンスイッチを STOP（停止）① の位置にしてエンジンを停止します。



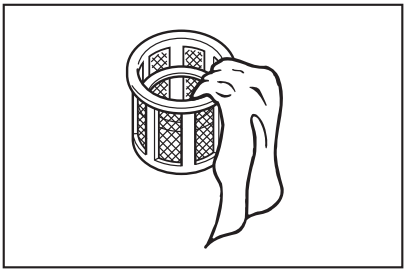
2. 燃料タンクキャップ ② およびストレーナ ③ を取り外します。
3. ガソリンを使ってストレーナを洗浄します。

⚠警　告

タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。

要　点

ストレーナが破損している場合は新品と交換してください。



4. ストレーナをふいて燃料タンクに挿入します。
5. 燃料タンクキャップを取り付けます。

⚠警　告

燃料タンクキャップはしっかりと締め付けてください。

● **バッテリの点検**

この発電機のバッテリは VRLA（制御弁式）バッテリです。バッテリ液の補充、点検は不要です。バッテリに異状があるときは、ヤマハ発電機販売店またはサービス店で点検・整備を受けてください。

⚠警　告

バッテリは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、けがをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- **火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。**
- **補充電は風通しの良いところで行ってください。**
- **ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。**
- **落下などの強い衝撃を加えないでください。**
- **バッテリ液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。**
- **子供の手の届くところに置かないでください。**

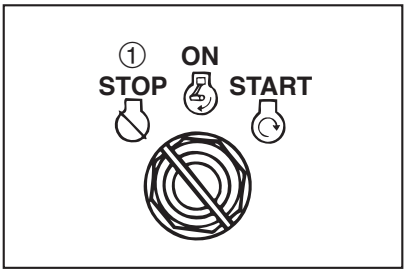
応急手当

- **万一、バッテリ液が皮膚、衣服などに付いたときはすぐに多量の水で洗い流してください。**
- **目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。**

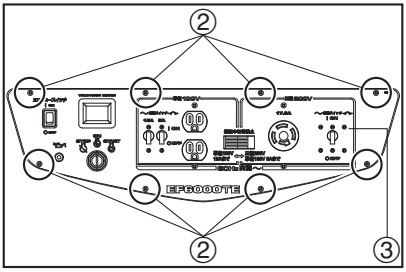
点検・調整（つづき）

● ヒューズの交換

1. エンジンスイッチを STOP（停止）① の位置にしてエンジンを停止します。

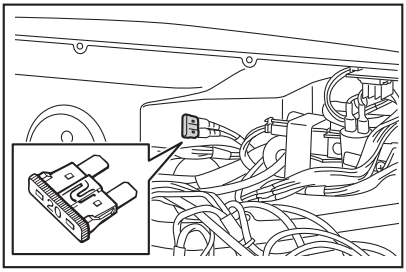


2. スクリュ ② を取り外し、コントロールパネル ③ を取り外します。



3. 新しいヒューズと交換します。

容量： 20A



⚠注　意

容量が異なるヒューズやヒューズ以外の針金、銀紙などは使用しないでください。

要　点

ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ発電機販売店またはサービス店へ相談してください。

4. コントロールパネルを取り付けて、スクリュを締め付けます。

運搬

発電機を自動車・トラックなどの車両で運搬する場合は、次の項目を守ってください。

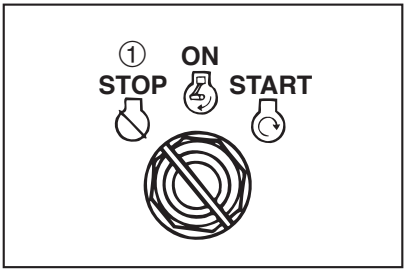
⚠警　告

- **振動、衝撃などで燃料タンクの燃料（自動車用レギュラーガソリン）がこぼれるおそれがありますので、燃料タンクに燃料を給油したまま運搬しないでください。**
- **燃料が気化して引火するおそれがありますので、発電機を車内やトランクなどに積載したまま、長い時間直射日光の当たる場所に放置しないでください。**
- **火災のおそれがありますので、予備の燃料は消防法に適合した鉄製の携帯タンクに保管してください。**
- **火災のおそれあり、車両に積載したまま使用しないでください。**

⚠注　意

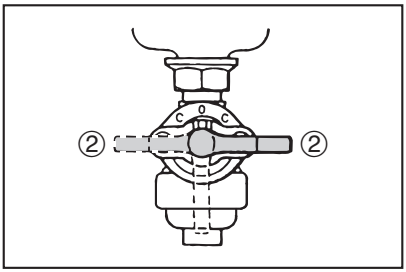
発電機の上に重いものを置かないでください。

1. エンジンスイッチを STOP（停止）① の位置にします。

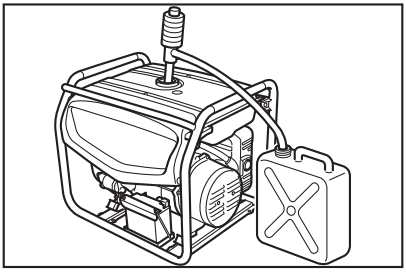


運搬（つづき）

2. 燃料コックを OFF（閉）② にします。



3. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り外し、市販のポンプを使用して燃料（自動車用レギュラーガソリン）を抜きます。なお、電動式ポンプは使用しないでください。



⚠警　告

- **燃料タンクキャップは確実に締めてください。**
- **こぼれた燃料は直ちに布きれなどで完全にふき取ってください。**

4. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り付けます。
5. 車両に積載し、発電機をロープなどで確実に固定します。

要　点

発電機が移動、転倒、落下、破損などしないような位置に積載してください。

保管・格納

● **保管**

使用後または定期運転後、次回の使用が３ヶ月以降になる場合は、１～11の作業を行って保管し、次に使用するときに備えてください。

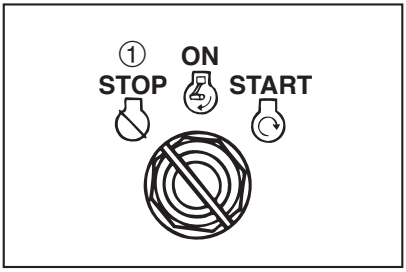
⚠注　意

燃料（自動車用レギュラーガソリン）が自然劣化してエンジンの始動が困難になる場合がありますので、燃料は抜いてください。

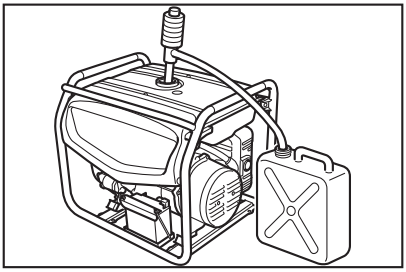
要　点

排出する燃料を受け取る容器を用意してください。

1. エンジンスイッチをSTOP（停止）①の位置にしてエンジンを停止します。



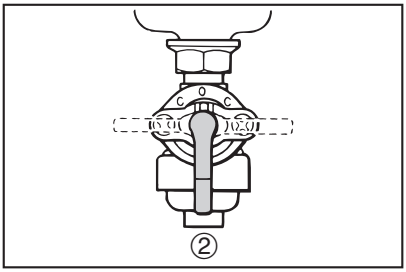
2. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り外し、市販のポンプを使用して燃料（自動車用レギュラーガソリン）を抜きます。なお、電動式ポンプは使用しないでください。
3. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り付けます。



⚠警　告

- **燃料タンクキャップは確実に締め付けてください。**
- **こぼれた燃料は直ちに布きれなどで完全にふき取ってください。**

4. エンジンスイッチをON（運転）の位置にします。
5. 燃料コックをON（開）②にします。



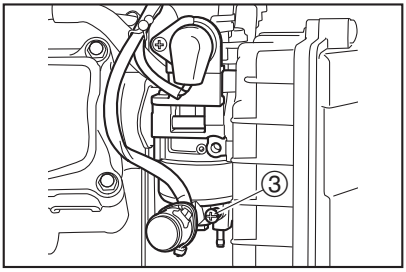
保管・格納（つづき）

6. エンジンを始動します。数分後にエンジンは「ガス欠状態」で停止します。

要　点

- 電気器具は接続しないでください。（無負荷運転）
- 燃料タンク内の燃料残量によって「ガス欠状態」になるまでの時間は変わります。

7. キャブレタのドレンスクリュ ③ をドライバ⊕でゆるめて燃料を抜きます。



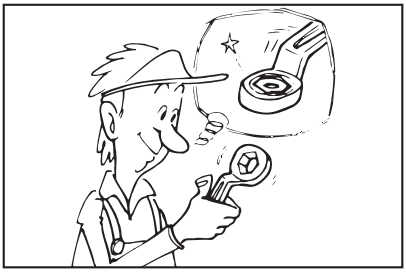
⚠警　告

こぼれた燃料は直ちに布きれなどで完全にふき取ってください。

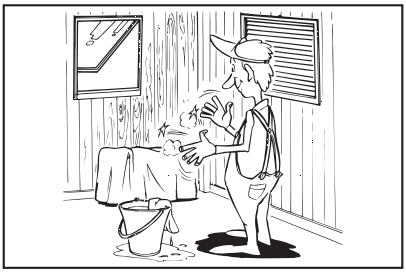
要　点

キャブレタ内のガソリンを抜かずに長期間放置すると、ガソリンが変質しエンジンがかからなくなる場合があります。

8. ドレンスクリュを締め付けます。
9. エンジンスイッチを STOP（停止）の位置、燃料コックを OFF（閉）にします。
10. バッテリの⊖マイナスリード線をバッテリのマイナス端子から取り外します。
11. ゆるみがあれば、各ボルト・ナット・スクリュを増し締めします。



12.室内で湿気が少なく換気の良い場所に保管します。



⚠注　意

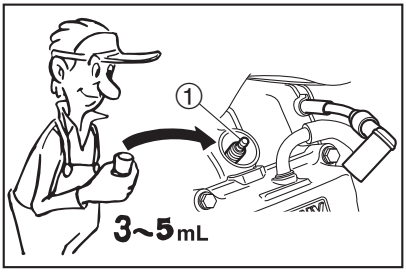
火災のおそれがありますので、発電機にカバーを掛ける場合は、エンジン部、マフラー部が充分に冷えてから行ってください。

● **格納**

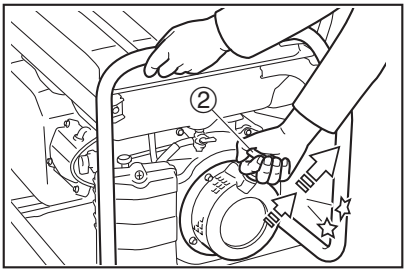
長期間にわたって使用しない場合は、次のことを行って格納し、次に使用するときに備えてください。

1.「● 保管」の 1 ～ 11 の作業を行います。

2. スパークプラグ ① を外し、プラグ孔よりエンジンオイルを 3 ～ 5mL 給油します。
3. リコイルスタータハンドル ② を 2 ～ 3 回引いた後、スパークプラグを取り付けます。

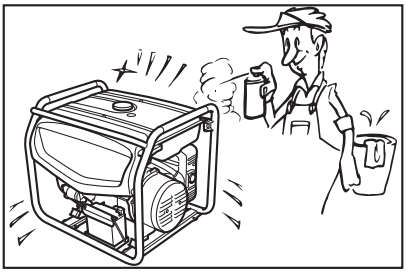


4. リコイルスタータハンドル ② を引き、重くなった状態（圧縮状態）にします。

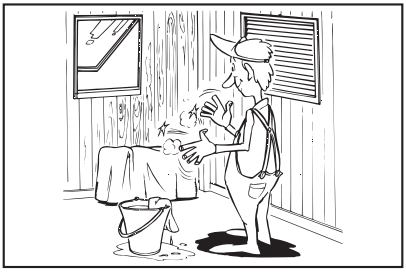


保管・格納（つづき）

5. 各部をきれいに清掃して防錆処理をします。



6. 発電機にカバーを掛け、室内で湿気が少なく換気の良い場所に保管します。



故障診断

故障は行き届いた点検整備により未然に防ぐことができます。故障の多くは、取り扱いの不慣れや不充分な点検に起因しています。故障が生じたときは、ヤマハ発電機販売店またはサービス店にご相談ください。

下記には最も考えられる故障を選び、その想定される原因を列記しました。故障診断が不安なときは、できるだけそのままの状態でヤマハ発電機販売店またはサービス店に連絡し、専門技術者にご相談ください。

● エンジンが始動しない

1. 燃料系統（燃焼室に燃料が供給されていない）
   - 燃料タンクが空になっている..... 燃料（自動車用レギュラーガソリン）を補給する。
   - 燃料パイプが目詰まりしている..... 燃料パイプを清掃する。
     もしくは、ヤマハ発電機販売店またはサービス店に相談する。
   - 燃料コックに異物が混入している..... 燃料コックを清掃する。
     もしくは、ヤマハ発電機販売店またはサービス店に相談する。
   - キャブレタが目詰まりしている..... キャブレタを清掃する。
     もしくは、ヤマハ発電機販売店またはサービス店に相談する。
2. 電気系統（火花不足）
   - スパークプラグが汚れている..... スパークプラグを乾燥させて清掃する。
   - スパークプラグにカーボンが付着している..... カーボンを除去する。
   - 点火系統が不良..... ヤマハ発電機販売店またはサービス店に相談する。
3. 圧縮系統（圧縮不足、漏れ）..... ヤマハ発電機販売店またはサービス店に相談する。
4. 潤滑系統（オイル不足）
   - リコイルスタータハンドルを引くとオイル警告ランプ(赤色)が点灯する.... エンジンオイルを規定量（注入口の口元）まで補給する。

● 電気が出ない

- 交流過電流保護装置が作動している.... エンジンスイッチを STOP（停止）の位置にして一旦エンジンを停止し、その後再始動する。

仕様諸元

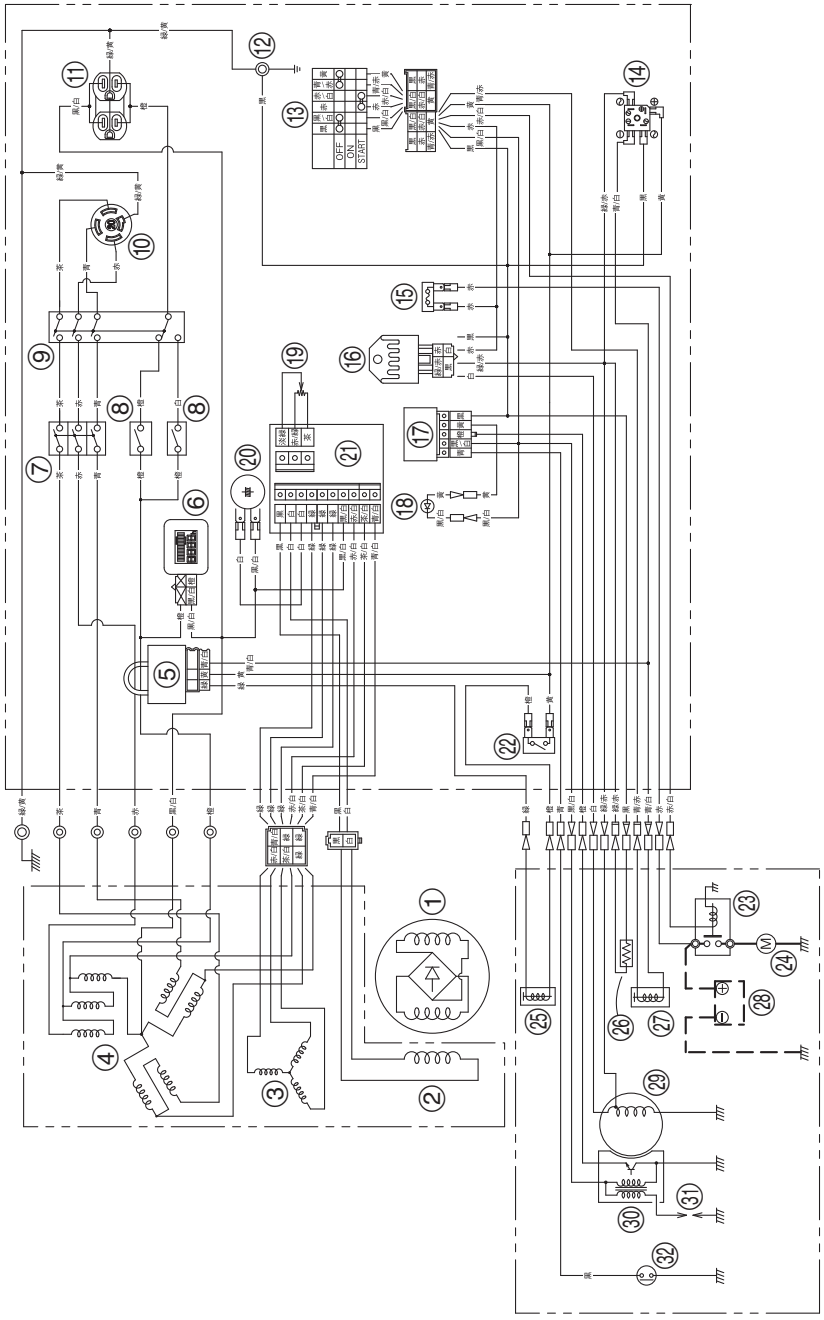
名称			EF6000TE	
形式			2 極回転界磁形単相・三相交流発電機	
電圧調整方式			A.V.R 式	
励磁方式			自己励磁式	
力率			三相 0.8/ 単相 1.0	
発電機	交流	定格周波数	50Hz	60Hz
		定格出力（単相 100V）	1.5kVA	1.5kVA
		定格電圧	100V	
		定格電流（単相 100V）	15A	15A
		定格出力（三相 200V）	5.0kVA	6.0kVA
		定格電圧	200V	
		定格電流（三相 200V）	14.4A	17.3A
装備	駆動方式		エンジン直結	
	交流コンセント		3 個（単相 2 個、三相 1 個）	
	交流過電流保護装置		N.F.B.	
エンジン	エンジン種類		空冷 4 ストロークガソリンエンジン	
	調速機形式		遠心重錘式	
	冷却方式		強制空冷式	
	点火方式		TCI 点火	
	スパークプラグ		NGK・BPR4ES	
	プラグキャップ		0.7～0.8㎜	
	エアクリーナ方式		半湿式（ウレタンフォーム）	
	総排気量		358㎖（358㎤）	
	使用燃料		無鉛ガソリン（自動車用レギュラーガソリン）	
	潤滑方式		強制飛沫式	
	使用潤滑油		API 分類 SE 級以上エンジンオイル（SAE 10W-30 または 10W-40）	
	使用潤滑油容量		1,100㎖	
	始動方式		リコイル式＋セルモータ式	
燃料タンク容量			24L	
定格連続運転時間			約 9.0 時間	約 7.5 時間
乾燥重量			95㎏	
全長×全幅×全高			670×535×565㎜	
騒音レベル＊ 1			96.5dB/L_{WA}	100.0dB/L_{WA}
			71.0dB(A)/7m	74.5dB(A)/7m
バッテリメーカー / 型式			GS ユアサ /YTX14-BS	

● この仕様諸元は改良のため予告なしに変更することがあります。

＊ 1：仕様諸元表に表示した騒音値は、エコノミースイッチ ON（作動中）時で、L_{WA} は ISO3744 に準ずる試験環境での音響パワーレベル、dB(A)/7m が機側 7m、四方向の算術平均値です。異なる環境下での騒音はこの数値と変わる場合があります。

メモ

結線図



① ローターアッセンブリ
② エキサイターフィールドコイル
③ サブコイル
④ メインコイル
⑤ エコノミーコントロールユニット
⑥ 電圧計／アワーメーター
⑦ 交流スイッチ（交流三相 200V）
⑧ 交流スイッチ（交流単相 100V）
⑨ 単相・三相切替スイッチ
⑩ 交流コンセント（交流三相 200V）
⑪ 交流コンセント（交流単相 100V）
⑫ アース端子
⑬ エンジンスイッチ
⑭ レクチファイヤ
⑮ ヒューズ
⑯ レクチファイヤ／レギュレータ
⑰ オイル警告ユニット
⑱ オイル警告ランプ（赤色）
⑲ 電圧調整ノブ
⑳ コンデンサー
㉑ AVR
㉒ エコノミースイッチ
㉓ スタータリレー
㉔ セルモータ
㉕ ソレノイドバルブ
㉖ キャブレタヒータ
㉗ キャブレタソレノイド
㉘ バッテリ
㉙ チャージコイル
㉚ TCI ユニット
㉛ スパークプラグ
㉜ オイル警告スイッチ

索引

あ行

アース端子 …… 7, 12
安全にお使いいただくために
お守りください ……3
運搬 …… 50
エアクリーナ …… 7, 42
エアクリーナエレメント ……7
エアクリーナエレメントの清掃 …… 42
エコノミースイッチ …… 7, 13
エンジンオイルドレンボルト ……7
エンジンオイルの給油 …… 17
エンジンオイルの交換 …… 40
エンジンオイルの点検 …… 33
エンジンが始動しない …… 56
エンジンスイッチ ……7, 9
エンジンの始動
(エレクトリック始動の場合) …… 21
エンジンの始動
(リコイル始動の場合) …… 23
エンジンの停止 …… 25
オイル警告装置 ……7, 9
オイル警告ランプ（赤色）…… 7, 10
オイルプラグ ……7, 17, 33
お客様ご相談窓口のご案内 ……2
おねがい …… 表紙裏

か行

格納 …… 54
各部の取り扱い ……9
各部の名称 ……7
環境への配慮 ……4
キャブレタ …… 7, 53
警告 ……3
警告シンボルマーク …… 表紙裏
警告ラベル ……5
携帯工具 …… 15
交流コンセント …… 7, 15
交流スイッチ …… 7, 11
結線図 …… 59
交流電源の使用可能範囲 …… 30
交流電源の取り出しかた …… 27
故障診断 …… 56

さ行

始業点検 ……31, 32
重要ラベル ……5
仕様諸元 …… 57
ストレーナカップ ……7
スパークプラグ ……7
スパークプラグキャップ ……7
スパークプラグの点検と清掃 …… 38
スパークプラグレンチ ……7
セルモータ ……7
その他の点検 …… 34
その他ラベル ……6

た行

正しい運転操作 …… 21
単相・三相切替スイッチ …… 7, 15
単相・三相切替スイッチの使いかた … 26
注意 ……4
注意シンボルマーク …… 表紙裏
注意ラベル ……6
定期運転 …… 36
定期運転・定期交換 …… 36
定期交換 …… 36
定期点検 …… 31
定期点検・整備ご相談窓口のご案内 … 37
定期点検表 …… 35
点検 …… 31
点検・調整 …… 38
電圧計／アワーメーター …… 7, 14
電圧調整ノブ …… 7, 14
電気が出ない …… 56
ドレンスクリュ ……7

な行

燃料コック …… 7, 12
燃料残量計 ……7
燃料タンク ……7
燃料タンクキャップ …… 7, 11
燃料タンクストレーナの清掃 …… 47
燃料（自動車用レギュラー
ガソリン）の給油 …… 16
燃料（自動車用レギュラー
ガソリン）の点検 …… 32

は行

はじめてお使いになる前に …… 16
バッテリ ……7
バッテリの点検 …… 48
バッテリの取り付け …… 19
ハンドル ……7
ヒューズの交換 …… 49
フューエルストレーナの清掃 …… 46
保管 …… 52
保管・格納 …… 52
本体識別番号 ……1
本体識別番号ラベル ……1

ま行

マフラー ……7
マフラーワイヤネットの清掃 …… 44

や行
要点シンボルマーク …… 表紙裏

ら行
リコイルスタータハンドル …… 7, 13

メモ

YAMAHA
ヤマハモーターパワープロダクツ株式会社
〒436-0084 静岡県掛川市逆川200-1
2019.04 × 1

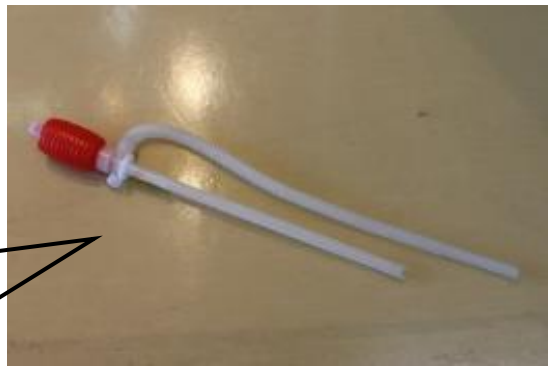
〈ガソリン〉三相 200V 発電機
EF6000TE
返却時の梱包手順

発電機返却時にはタンクの中のガソリンを空にしていただく必要があります。

メーカー取説 P52「保管・格納」を参考に燃料タンク内の燃料を空にしてください。

レンタル時、お客様にお届けさせていただいております備品、手動ポンプをお使いください。

使用後の手動ポンプは返却不要です。
お客様にて処分をお願いいたします。



①		・パレットに発電機本体を乗せてください。 「タイヤ位置」と書いてある場所にタイヤを乗せてください。
②		・ハンドルを折りたたんでください。

③

【前】　　【後】

備品袋の中の返却用 PP バンドでパレットと本体を前後 1 箇所ずつ固定してください。

④

・別箱（備品箱）に備品袋を入れて
PP バンドで閉じてください。

【備品袋の中に入れるもの】

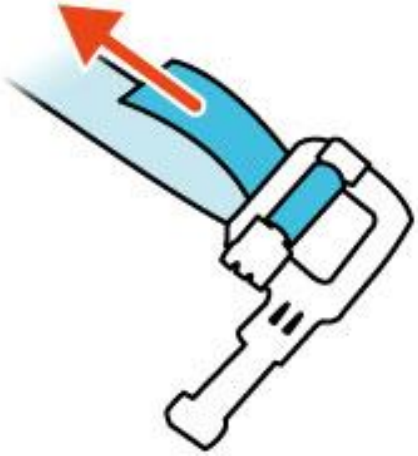
- 鍵
- 予備プラグ（未使用なら返却）
- スパークプラグレンチ（セット）
- トレイ
- 取扱説明書

⑤		・左記が、備品の詳細です。 ・鍵 ・予備プラグ（未使用なら返却） ・スパークプラグレンチ（セット） ・トレイ ・取扱説明書
⑥		・備品箱を本体の上に乗せてください。
⑦		・上箱を被せて完成です。

▼返却用の伝票を指定の位置に貼り付けてください。
返却用伝票は弊社にてご用意させていただきます。
梱包の箱に貼り付けてあります。

お届け時の伝票の下にある赤い伝票が
返却用の伝票です。

梱包時ＰＰバンドの使用方法

① 輪をつくる。	② つくった輪をストッパーに通す。
③ 	④ 
⑤ 荷物に回したもう片方の バンドも同様に通す。	⑥ ひもを両端に引っ張り、 しっかり締める。

※手順を参考にしても分からない場合は、**027-289-6080**（時間外は緊急連絡先：080-5643-7181）にご連絡ください。